

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成30年2月8日 (2018.2.8)

【公開番号】特開2017-7882(P2017-7882A)

【公開日】平成29年1月12日 (2017.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2017-002

【出願番号】特願2015-123187(P2015-123187)

【国際特許分類】

C 3 0 B 29/30 (2006.01)

C 3 0 B 33/02 (2006.01)

【F I】

C 3 0 B 29/30 A

C 3 0 B 33/02

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月20日 (2017.12.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

【特許文献 1】特開平 1 1 - 9 2 1 4 7 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 5 - 1 7 9 1 7 7 号公報

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

ところで、焦電効果（焦電性）は、結晶の温度が変化することによって生ずる格子の変形に起因する。電気双極子を持つ結晶では、双極子間の距離が温度で変わるために生じると理解できる。焦電効果は、電気抵抗の高い材料でのみ生じる。イオンの変位により、結晶表面には双極子方向に電荷を生じるが、電気抵抗の低い材料ではこの電荷は結晶自身の持つ電気伝導性のために中和されてしまう。通常の透明な L N 単結晶は、上述したようにその体積抵抗率が $1 \times 10^{15} \Omega \cdot \text{cm}$ のレベルであるために焦電効果が顕著に現れる。しかし、黒化した不透明 L N 単結晶ではその体積抵抗率が数桁のレベルで大幅に低下するため、極短時間で電荷が中和され焦電性が見られなくなる。